

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財)日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2023.8.1

vol. 53

赤谷の森でわかったこと

原材料の旅路に行く

―ラッシュユのイヌワシプロジェクト

ラッシュユジャパン合同会社

黒澤 千絵実・岩井尚子・石関 文恵・丸田千果

トピックス

● 地域と繋がる赤谷プロジェクト

環境省信越自然環境事務所

谷川管理官事務所 渡辺 柊平

● 20年の地域のあゆみを振り返る

地域協議会 本多 結

今回のテーマ

(卵塊調査で見つけたトウホクサンショウウオ 撮影:赤谷森林ふれあい推進センター)

AKAYA no MORI

ミニ写真館

「春の散策中に出会った赤谷の仲間たち」

(写真:赤谷森林ふれあい推進センター)



タチツボスミレ(5月下旬)



キジムシロ(5月下旬)



コンロンソウ(5月下旬)



マイツルソウ(5月下旬)



ブナ(5月下旬)

世界各地で原材料の買い付けに勤むラッシュユのバイヤーは、常に持続可能な方法で原材料を調達してきましたが、地球上で様々な課題が深刻化する中、持続可能性のその先を見据え、これまでとは違った調達方法を探していました。そこで着目したのが、渡り鳥。ブランドの信念に誰もが世界を自由に行き来し、その自由を樂しむべきであると信じています」という移動の自由を掲げるラッシュユにとって、人間が決めた国境にとらわれない渡り鳥は、自由を表すだけでなく、時に豊かな生態系の象徴として、進むべき方向を示してくれる存在となりました。こうして2016年頃から、渡り鳥のルートを追い、その先方で再生可能な原材料を探る独自の購買活動をスタート。ラッシュユが原材料や資材を購入することで生物多様性を取り戻し、絶滅が危惧される動植物の生息環境や周辺地域のコミュニティ再生を目指すプロジェクトが始まりました。

「一体、何をしてるんだ」と不思議に思いかもしれません。

化粧品会社が真剣に鳥のことを考え、鳥を追った原材料調達をしていると聞いたら



コンパウンダー 岩井 尚子

普段は神奈川県のアシタカ町にあるキッチンで「コンパウンダー」と呼ばれる製造技術者としてバスボムを作っています。『四季の服』には、みなかみの恵みを使ったバスボムが3種類あり、バスボムのベースとなる重曹にバイヤーが調達してきた木屑を混ぜ、トッピングにも木屑を使います。ストーリーのある原材料を扱うことがラッシュユの作り手の醍醐味ですが、自分が作った商品を手にするお客様の反応をずっと見てみたかったので、イオンモール高崎で開催されたバスボム製造体験イベントにスタッフとして参加しました。参加者の中には赤谷の森のイヌワシが絶滅しそうなことを知っているお子さんもいました。

イベントに参加したことで、本当の意味でイヌワシプロジェクトにつながることができた気がします。イオンモール高崎から見えた山並みのもっと奥にある、イヌワシが暮らす森の恵みをバスボムに使わせてもらっていることが具体的に想像できるようになり、不思議とイヌワシを絶滅させたくない気持ちも強くなりました。原材料を通して社会や環境の役に立てる。そんな原材料があるから、私はラッシュユで働いています。



1 2 バスボム製造体験でみなかみの恵みを使ったバスボムの使い方を紹介
3 みなかみからキッチンの製造ルームに届いたヒノキの木屑

バイヤー 黒澤 千絵実

ラッシュユには「地球をよりみずみずしく、豊かな状態で次世代に残す」という使命があり、私のチームでは原材料調達を通して、世界にポジティブな影響をもたらしたいと考えています。鳥にフォーカスした環境再生に取り組み始めてから、「私たち、化粧品会社のバイヤーだよな?」と思うような貴重な経験をさせてもらっています。環境保全や生物多様性の専門家から話を聞かせてもらい、雪山に登ることもありました。イヌワシプロジェクトをきっかけに、ラッシュユのものづくりに関わる人(や動物)が増え、商品に深みが増した気がします。

「木を切ることは悪いこと」と思われがちな欧米で働くラッシュユの同僚も、今では「イヌワシ」と聞けば日本の人工林問題を思い出し、生息環境再生のために「木を切って、使わない」と目線を合わせてくれるようになりました。昨年発売された日本限定のバスボムギフト『四季の服』には、原材料にみなかみのスギやヒノキ、ヒバの木屑を提案しました。

今のチームに異動した時、グローバルのバイヤーに挨拶のメールを送ったら、こんな返信がありました。「美しい原材料(beautiful ingredients)の世界へようこそ」。私の仕事は美しい原材料を探してくるのですが、美しい原材料とは

作る人も使う人も心地良く、犠牲や罪悪感なく、人間と動物が共存できるもの。そんな美しい原材料に出会ってくれたイヌワシには、「ありがとう」と伝えたいです。

- 1 雪に覆われた赤谷の森を歩いた2018年の冬、空から私たちを見てくれていたのか、空を舞うイヌワシを見ることができました
- 2 日本のお風呂文化に着想を得て原材料を厳選し、開発されたバスボムギフト『四季の服』

赤谷の森でわかったこと

原材料の旅路を行く

ラッシュユのイヌワシプロジェクト

LUSHイオンモール高崎店 ショップマネージャー 石関 文恵

店舗で働く私たちは、ラッシュユが大切にしていることをお客様に伝える「ストーリーテラー」の役割があり、地元群馬を拠点にするイヌワシプロジェクトには思い入れがあります。

数年前に社内報である原材料の生産者を訪問する記事を読んでから、近くにサプライヤーの方がいたら訪問したいと思っていたので、イヌワシプロジェクトが始まってからチームでみなかみを訪れました。たくみの里ではスキンケア商品に使っているお豆腐の手作り体験をしたり、カスタネットの給付けをしました。その経験は私たちを魅了し、地元の原材料を使った商品に対してより愛着が湧きました。

実はイヌワシは、新たな出会いも作ってくれました。ある日、お買い物に来たお客様がイヌワシプロジェクトに興味を持ち、ブランドブックをお渡ししたことがありました。そのお客様はイヌワシプロジェクトに共感し、「地域の豊かな自然や絶滅危惧種を守る一員になりたい」と求人に応募してくれ、今では一緒に働くチームメイトになりました。この「赤谷の森だより」を手にとった皆さんともイヌワシやみなかみの自然についてお話してみたいです。



ラッシュユジャパン合同会社

くろざわちえみ
黒澤千絵実
いわいなおこ
岩井尚子
いしげきふみえ
石関文恵
まるたちか
丸田千果

地域と繋がる 赤谷プロジェクト

環境省 信越自然環境事務所
谷川管理官事務所
アクティブ・レンジャー
わたなべ しゅうへい
渡辺 柁平さん



自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

みなさん初めまして。今年度から環境省谷川管理官事務所に着任し、国立公園管理官の補佐(アクティブ・レンジャー)をしています。当所では谷川地域と苗場地域を管轄し、環境省直轄施設の管理や登山巡視、自然情報の収集、各種保全活動の実施と、それらの情報発信を行っています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

関係者の方々とは仕事を通じて知り合いましたが、赤谷プロジェクト自体は、以前勤めていた新潟県の職場で知りました。

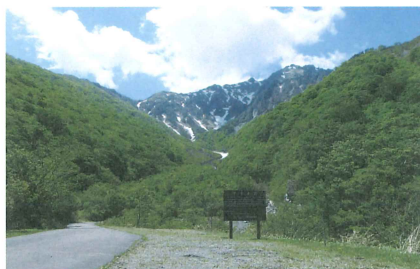
現在は赤谷プロジェクトの事務局会議や企画運営会議などに参加させていただいています。

今後、赤谷プロジェクト関係者で行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

私自身、今まで環境保全や自然保護に携わる経験がなかったので、是非そういった活動に参加させてもらいたいです。

赤谷プロジェクトへ一言!(何でもOK!)

今後もさまざまな場面でお世話になるかと思います。その際はどうぞよろしくお願ひいたします!



▲マチガ沢



▲巡視の様子



▲平標山

20年の 地域のあゆみを振り返る

地域協議会 **ほんだ ゆう 結**



3月30日におよそ3年ぶりのakayaカフェを開催しました。今年でついに20周年となる赤谷プロジェクトが、地域とともにどのように歩んできたのか、みんなで振り返ってみよう! ということで、地域協議会の若手を中心に企画しました。

第一部は、みなかみユネスコエコパーク登録の立役者となった役場職員・小池俊弘さんのお話。みなかみ町の憲章にも謳われている「自然を守る、活かす、広める」活動についてです。30年前にリゾート開発をやめ自然を守る選択が地域で行われたこと、その後20年前に守られた自然を地域で活かすためプロジェクトが発足したこと、そして、その活動を広めるための取り組みがエコパーク登録に繋がったことなど、小池さんが熱のこもったお話を語られ、会場中が聞き入っていました。

第二部は、全員参加型のワークショップ。みなかみの豊かな自然に関心を持つ皆さんが、想いを共有する多世代交流の時間になりました。

そして第三部は、プロジェクト発足時のメンバーや、小学生の頃から赤谷の森に関わり続けてくれている高校生を交えての懇親会を行い、全体を通して総勢50名弱の皆さんにご参加いただき、賑やかで楽しい会になりました。

多様な活動を行う赤谷プロジェクトは、時代とともに本当に沢山の方々関わって20年間続いてきたんだと再認識するとともに、受け継がれてきた豊かな自然というバトンをこれからも守り、活かしながら次世代に渡していきたいと思いました。

8月6日には、今回のカフェにも参加してくれた小さいお子様連れのママが中心となって、水辺の生きもの観察会をカフェスタイルで開催予定です。プロジェクトが行ってきた溪流環境の復元のお話なども交えつつ、子供たちに赤谷の森で楽しいひと時を過ごしてもらえればと考えています。是非ご参加ください!



▲小池さんのお話し



▲ワークショップの様子



▲懇親会での集合写真



色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



R5.5.13

赤谷の日の活動(5月)

高山植物であるニッコウキスゲをシカによる食害から守るために、シカ柵の設置を行いました。



R5.5.14

赤谷の森自然散策(春)

春の高山植物を探しながら旧三国街道を歩いた後、猿ヶ京温泉で民話と紙芝居を堪能しました。



R5.5.30-12.上旬

ニホンジカ捕獲試験

赤谷の森に増えつつあるシカの行動パターンを把握するため、シカ捕獲試験を年末頃まで継続していく予定です。



R5.5.20-21

放送大学面接授業

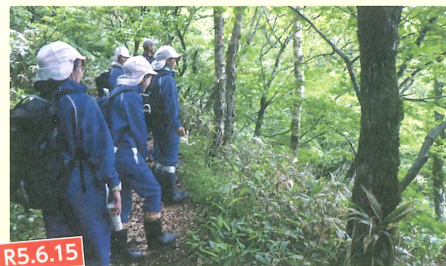
放送大学の面接授業「国有林野の生物多様性復元事業」が開催され、赤谷センターも講師として参加しました。



R5.5.25

新治小学校5年生の森林環境教育

自然とふれあう中で多くのことに気づいてもらうことを目的として、生徒全員で大カツラを目指して歩きました。



R5.6.15

新治小学校6年生の森林環境教育

旧三国街道を歩き当時の歴史背景などを学ぶことで、地域の歴史や文化について理解を深めました。

着任のご挨拶

赤谷森林ふれあい推進センター 伊藤 正彦



皆さん、こんにちは。令和5年4月から赤谷森林ふれあい推進センターに自然再生指導官として赴任してきました伊藤正彦です。センター業務は初めてののために色々とお迷惑をおかけしますが、これから中核団体である赤谷プロジェクト地域協議会、日本自然保護協会、関東森林管理局の三者及びみなかみ町など関係者の皆さんと協調連携し、地域の人々の豊かな暮らしと生物多様性の調和に微力ながら取り組んでいきたいと思っております。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。



赤谷森林ふれあい推進センター 神田 駿

はじめまして～！4月から赤谷センターに配属されました神田駿と申します。赤谷センターでは林野庁の職員に限らず多種多様な方々と連携しながらプロジェクトを進めていけるという点が魅力的だと感じています。今後も多くの方と協力しながら皆様にとって楽しみあり、学びありな赤谷の森を目指して頑張っていきます。よろしくお願いいたします。

赤谷プロジェクト、って？

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方) の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせください。

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター

検索



赤谷プロジェクトサポーター募集!

(たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：萩原

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※「森のおもちゃの家」内

理事 本多 結

メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4101

プロジェクト担当 萩原 正朗

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 上野 文紀

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp